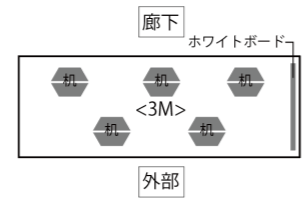
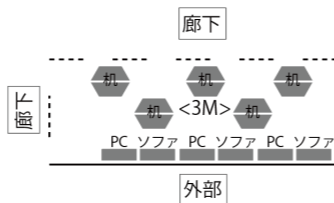
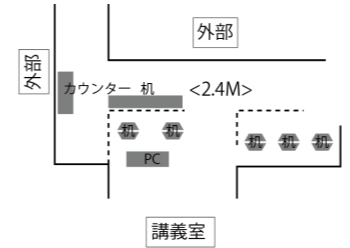
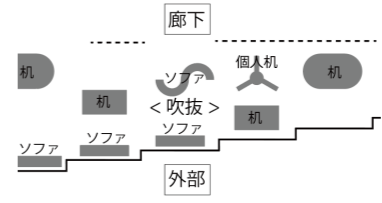
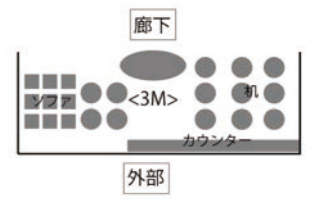


詳細分析 比率

使用実態		図書館内アクティブラーニングルーム	総合教育棟エントランス	人文社会科学棟エントランス	自然研究棟プロムナード	ほんわかカフェ
使用実態		ミーティングプレイス	タッチダウンスペース	集中した個人学習・休息の場	タッチダウンスペース	サードプレイス
平面分析	平面形状	開放なし	二辺開放	二辺開放	開放	一辺開放
	パーティションの有無	パーティションにて廊下・入口を区分	パーティションにて廊下・入口に一部視線を制御	一部パーティション・テーブルにてゾーンわけ	一部パーティションにて講義室廊下と区分	なし
断面分析	天井高	約3.0m	約3.0m	約2.4m	吹き抜け	約3.0m
	パーティション高さ	なし	約1.8m (ホワイトボード)	約1.5m (透明)	約2.1m (掲示板)	なし
家具方向分析		台形テーブル (求心型)	長方形ソファ (直線型)	台形テーブル (求心型)	長方形・半円組み合わせテーブル (求心型)	一人がけソファ (離散型)
			PC用個ブース (直線型)	円形テーブル (求心型)	半円ソファ (離散型)	カウンター (直線型)
			台形テーブル (求心型)	PC用個ブース (直線型)	長方形ソファ (直線型)	円形テーブル (求心型)
				カウンター (直線型)	PC用ブース (離散型)	
イメージ						
		家具を動かせるので便利	授業の前後での使用頻度が高い	講義室に声が聞こえるためあまり使用しない	利用する講義室に応じて場所を選択している	空いている時間に使用する
		机の組み合わせが自由なので、集まる人数に応じて利用でき便利	混んでいて使いたくても使えない	講義がない時間の朝食や昼食には使用する	コンセントがないのが不便	友人と勉強、休憩を並行してできる話しててもよい雰囲気
		会議や課題準備のためのディスカッション等の目的をもって集まる	友人と勉強、食事、待ち合わせ等多様な使い方をする	仕切られたブースは使用しない	3年生から学生控え室を使う	一人で使うことは少ない
ヒアリング			PCブースは使用しない	パーティションの役割が不明	大きい机の方が便利	テレビや雑誌、新聞を読む
				暗い		
				寒い		
			ホワイトボードを利用する		寒暖差がはげしい	
考察		・開放感ある天井高・窓・照明、閉じられていることでの空調の快適さ、可動式の机によって満足されている。 ・目的地であることから、設計の意図と使用の意図がスムーズであると予測される。	・プロット分析により、動線の要となっていることがわかった。 ・二辺開放のなかに、パーティションを動線を分断しない程度に設えることで、ディスカッションをしやすい場所を提供している。 ・主な利用は台形テーブルでの学習に見受けられるが、ソファの利用も確認できた。	・姿勢を変えられたり、気分に応じて家具を選択できるよう設えを計画しているが、利用頻度は低い。 -講義室に隣接していることで、静かに利用しなくてはならない。 -天井高も低い上、照明が暗く圧迫感がある。	・プロット分析により、動線の要となっていることがわかった。 ・様々な家具が用意されており、学習に応じた家具の選択がされているように見受けられる。 -視線を制御するパーティション等の代わりに十分な距離を確保していると予測される。 ・吹き抜けで開放感がある一方で、空調のコントロールができないため、冬季の利用頻度は低い。	・様々な家具が用意されており、学習に応じた家具の選択がされているように見受けられる。 ・休息の要素が多いなかで、作業する人々の利用頻度が高い。 ・一方で他にサードプレイスとなる場が少ないため、利用率が飽和状態となっている。

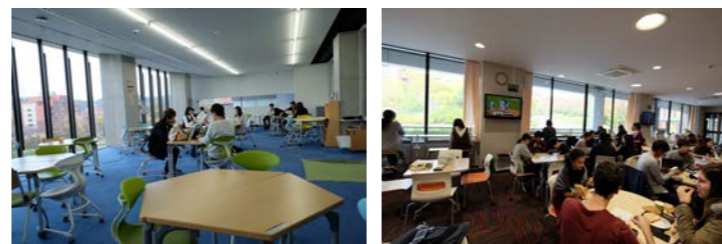
<分析>

- ・ミーティングプレイヤサードプレイスにあたる場所は目的がはっきりしているため、管理者側の意図と使用者側の意図が相互に理解されやすいことがわかる。つまり、設置すべき設備や家具等の選定がうまくいっているといえる。
- ・人文社会科学棟エントランスのように利用頻度が低い場所には、音・明かり・寒暖差等の環境性能に関わる問題を解決しないまま、家具を新たに設置されている。環境面や建築側の特性を読み取りながら、新たなタッチダウンスペースの計画が必要といえる。
- ・総合教育棟エントランスは狭い中で見通すことができないホワイトボードパーティションで仕切られているため、滞留を促しているように見受けられる。
- ・自然研究棟のプロムナードは廊下とのパーティションを部分的に設置することと、家具配置の密度や動線との距離をとることで、滞留を促していると考えられる。

<提言>

- ・現状の場所や使用者の特性をふまえながら、環境面にも配慮したタッチダウンスペースの計画が必要である。
- ・プロット分析により導かれた小さなタッチダウンスペースの計画は、本分析においても親和性は高く、環境面に配慮した改善案も可能。

●目的地となっているミーティングプレイス・サードプレイス



●環境面に配慮せず設置されたタッチダウンスペース



●適した視線や距離を確保することで滞留を促す

